

センター近況

計算機センター長 吉田 博

昨年4月に金沢大学電子計算機センター長に就任して、一年を経過いたしました。ご存知のとおり、現在の電子計算機は昭和53年にレンタルが認められ、文部省のレンタル料500万円と利用者の負担金により当初Facom M-160が導入され、昭和57年には、M-170Fに更新され、さらに、昨年4月からは高速化機能が装備されて、現システムとしては、最高速のものとなっています。

しかし、昨年10月から今年の3月までは、連日の24時間運転にもかかわらず、Jobが処理できず、計算の所要日数が大幅に延長いたしました。ちなみに、電子計算機の運転日数は昨年12月は30日と31日を除いた29日間、今年1月は1日～4日を除いた27日間、2月は日曜、祝日を含めた29日間、3月は年度末の処理のための2日を除いた29日間となっています。

このようなことで、利用者の皆様には、多大のご迷惑をおかけしてきました。このままでは、今年はさらに混雑が予想されます。このような状態から脱却するために、目下、総合情報処理センターの設置を概算要求しています。此の要求では、日本語処理に重点を置き、日本語端末75台、全端末160台とし、また、電子計算機の処理能力を現在の5倍以上にしようとするものです。しかし、現在のような国の財政状態では、総合情報処理センターの設置は非常に困難なようですが、学長にもお願いし、運営委員長と共に、最大限の努力をして行くつもりであります。

昨年度は、端末を30台設置した一般情報処理教育実習室が工学部内に完成し、今年4月から実習に使用されています。さらに、比較的空いている前期の実習に対しては、消耗品代を除いて無料でご使用頂いています。益々のご利用をお待ちしています。

また、昨年より着手いたしました教務情報処理の電算化の為のプログラム作業も、委員の献身的なご努力によって、ほぼ完成し、この10月から工学部の全学生を対象に、本稼働の予定であります。さらに、入学試験発表の事務処理の電算化のためのプログラム作業も終了し、60年度入試で試行、61年度に本稼働の予定であります。

昨年度は広報委員会と教育委員会により、200ページを越す厚いマニュアルが3冊も発行されました。これも、偏に委員の皆様のご努力の賜と感謝いたします。この広報は、当センターの車古講師により独自に開発された日本語処理システムにより日本語ラインプリンターで印刷されたものをそのままオフセット印刷したものであります。このようなシステムは他大学は勿論、大型電子計算機センターにも有りません。このソフトウェアを皆様に十分にご利用頂くために、当センターの日本語処理に関するパンフレットを作成し、各教官に配布すると共に、全国の大学の電算センターにも発送しました。また、このソフトウェアの使用法は今年3月発行のVol.7, No.3に詳しく載せて

ありますのでご利用下さい。

このように、当センターでは、現在の電子計算機を最大限に、かつ、有効に利用するために、管理、運営、業務、開発、教育、広報活動等、総て、センターと利用者が一体となって進められており、他センターの模範となるものと確信しています。今年もいくつかのプロジェクトを推進しようと思っています。何卒、益々のご利用とご協力をお願い申し上げます。